

まえがき

この本では、子どもたちのコミュニケーション能力を高める「ワークシート」を数多く紹介しています。ここでいうワークシートは、単に「書き込み欄がある用紙」という意味ではありません。子どもたち（児童生徒・学生）に「主体的・対話的で深い学び」を実現するプログラムやファシリテーション・スキルを埋め込んだ用紙になっています。つまり、紹介するのは「ワークシートを用いたグループワーク」ということです。

この本で紹介する「ワークシートを用いたグループワーク」には、以下のような4つの特長があります。

まず1つめは、「1人で書けば終わり」ではなく、必ず「対話的な学び」が起きるような仕組みにしています。そして、その構造が「主体的な学び」を促進します。

2つめは、カウンセリング、コーチング、メンタリング、キャリア・カウンセリング、構成的グループエンカウンター（SGE）、プロジェクト・アドベンチャー（PA）などの理論やスキルを取り込んだワークシートだということです。実施する先生がそれらの理論・スキルに習熟していなくても、例えば教員初心者でも、この本で紹介してあるワークシートを用いることでベテランのスキルを使うことになります。

3つめは、「準備が簡単」ということです。そもそも私は、自分自身の仕事の効率化のためにワークシートをつくっていました。また、職場の同僚に提供するときも、こまごまと説明する必要がなく、ワークシートを渡せばすむように工夫していました。学年のキャリア教育用のプログラム開発を担当していたときのモットーは、「(担任が) 10分で準備して、50分の授業ができる」ワークシートをつくることでした。

4つめは、安全であるということです。クラスの中にはさまざまな子どもたちがいます。その状況を見逃して全員に同じワークを無理強いすれば、いろいろな問題が生じます。この本で紹介する「ワークシートを用いたグループワーク」は、私自身と仲間たちが繰り返し使って安全性を確かめているものばかりです。どうぞ安心してお使いください。

そして、紹介するワークシートの使用範囲は、「担任の仕事」に限定しまし

た。ただし、その効果はキャリア教育、生徒指導、授業改善などに及ぶように計画してあります。さらに、先生にとっても子どもたちにとっても、「主体的・対話的で深い学び」を教科の授業で実現するための準備やトレーニングになります。もう少し具体的に述べると、以下の4点になります。

- ①使用する場面としては、担任としてクラスの子どもたちと接するときです。つまり、学活やロング・ホームルーム、短学活やショート・ホームルーム、総合的な学習の時間・総合的な探求の時間、キャリア教育の時間、掃除の時間、二者面談や三者面談、保護者会、家庭訪問、などです。
- ②ねらいとしては、新年度の「クラス開き」、子どもたち同士の間関係づくり、子どもたちと担任の間関係づくり、進学や就職に向けての進路探索、遅刻指導などの基本的な生活習慣の立て直しなどを通して、子どもたちのコミュニケーション能力を高めていくことです。子どもたちは「クラス内が安全安心な場」であることを確認し、ペアやグループで対等に話したり聞いたりするのがうまくなっていきます。
- ③そうやって高まったコミュニケーション能力が、教科の授業での「グループワークによる学びの質を高める」ことにつながっていきます。
- ④さらに、このワークを指導する担任は、教科の授業に必要なファシリテーターとしての振る舞いの基礎を身につけることになります。

ワークシートの使い方の解説も工夫してあります。特に第1章では「座席表づくり&担任自己紹介」を実況中継風に解説してみました。私が実際に使うときに、何を考え、何を意図して、どう活動しているかを具体的に紹介しています。これは、ファシリテーション・スキルの理解に役立つことをねらったことです。

この本の最も簡単な使い方は、ワークシートをそのままコピーして使うことです。A4サイズに拡大コピーすると、使いやすいと思います。また、ほんの森出版のホームページの本書の紹介コーナーから、ワークシートをダウンロードできます。ワークシートはワード・一太郎・PDFのファイルをアップロードしてありますので、現場の状況や、ご利用になる先生たちの好みに応じてアレンジ可能です。いろいろな工夫をしてお使いください。

それでは、始めてみましょう！

担任の仕事量が減って楽になり、クラスの子どもたちが喜ぶから楽しくなり、学びの質が高まり、授業の腕も上がります。どうぞ、お楽しみください！

*本書には『担任ができるコミュニケーション教育—中高校用プログラムとシナリオ例』（小林昭文著、ほんの森ブックレット、2004年）をベースにした部分があります。